

Evolutionary Curriculum

最先端テクノロジーの教育環境

医療を通じて地域、そして世界に貢献していくためには、一人ひとりが「昨日の医療を超えた今日の医療、今日の医療を超える明日の医療」に、進化し続ける医療を追求していかなければなりません。

医学だけではなく、ロボットや人工知能といった工学など、医学以外の専門分野との融合を図りながら、「済生学舎の熱」を未来に引き継ぐ、使命感を持った医師の育成を目指します。



ハイブリッド手術室

日本医科大学付属病院には、手術支援ロボットが導入されているほか、最新のハイブリッド手術室も備えられています。この手術室では、血管内治療（ステント治療）と外科治療を同時に行うことができ、放射線科と協力して胸部・腹部大動脈瘤手術や急性大動脈解離に対する治療を積極的に行っています。心血管外科医と集中治療医、放射線科医がお互いの治療法を尊重しながらディスカッションすることで、患者さんの病態に即した最適な術式の選択が可能です。末梢血管外科手術では、放射線科、循環器内科・再生医療グループと協力してハイブリッド治療を積極的に行い、細い動脈へのバイパス手術を含めた加療も行っています。このように最新のテクノロジーを備えた環境で学ぶことで、日進月歩の医療を実践する力が育まれます。

ロボバイオテクス、モーションキャプチャシステムによる運動解析

医学部教育では、医師国家試験合格だけを目標とするのではなく、学問としての医学に興味を持ち、卒業後の医学研究への動機付けや意欲を養うことも重要です。AI、ロボット、仮想現実、モニタリング技術などのテクノロジーが大きく進歩するなかであって、医学部教育においても早い段階から先端技術を駆使した研究に触れておく必要があります。本学では、東京理科大学、早稲田大学などの他大学との連携を進め、学生時代から異分野でも研究できるカリキュラムを構築しています。3年次の「研究配属」では、連携大学において、テクノロジーを駆使した先端的な研究も実践することが可能。4年次以降の後期研究配属も充実しており学生のリサーチマインド涵養につなげています。



日本の医療・医学の「あけぼの」である、日本医科大学の前身となる済生学舎について

済生学舎は、明治9年（1876年）に創立されました。良医を育て庶民の医療を支えるとともに、小口忠太や野口英世をはじめとする多くの研究者を輩出してきました。日本医科大学はこの済生学舎を前身とする創立140年を超える私立大学です。済生学舎という校名は、当時のドイツ人医師、フーフェラントの著書『医戒』にある言葉からとられました。これは「貧しく病で苦しむ人々を救う」という意味を持ち、その精神は現在でも社会貢献の精神として、日本医科大学に受け継がれています。

